

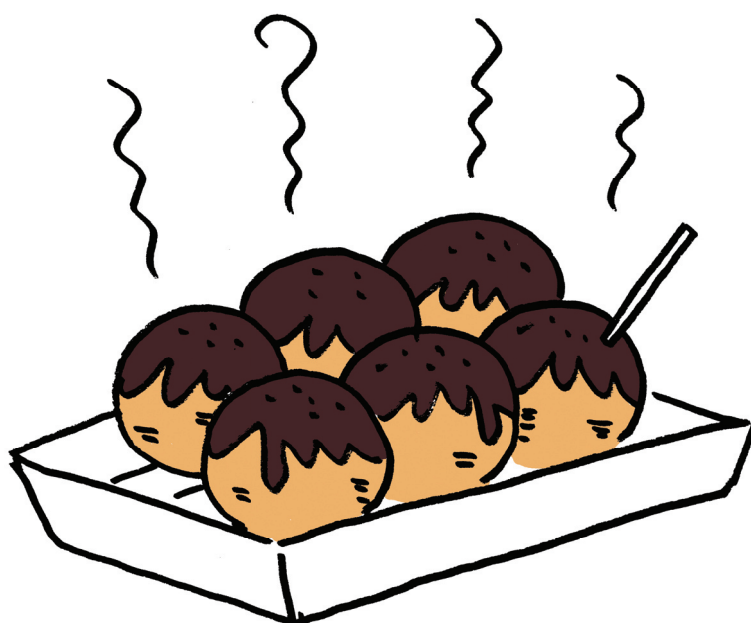
wellvoice

くにたち市民討議会

くにたちの「まつり」と「イベント」

(2008年10月26日実施)

報告書



社団法人立川青年会議所
国立委員会

もくじ

はじめに	1
市民討議会とは	2
市民討議会の特徴	2
開催までの経緯	3
運営の結果	5
開催前の準備	5
開催当日	7
テーマ討議の実施結果と考察	10
実施後の評価と今後の課題	13
参加者のアンケートから	13
実施後の評価と課題	14
今後の展開	16
まとめ	16
謝辞	17
資料編	19

“wellvoice”の名称について

市民討議会に対する知名度や内容に対する認知度がまだまだ低い現在、「公開討論会」や「市民会議」などとの区別が付かず、浸透させる上での障害となるのではとの考えから、愛称をつけようという声があがりました。いくつかの案から、最終的に「wellvoice」の名称が選ばれました。

① “well（申し分なく）”と“voice（声）”を合わせた造語としての「よりよい声」として、② “well”のもう一つの意味である「井戸」にかけ、「井戸端会議」のように気軽に活発に意見を出し合えるような討議体としたい、との思いから命名しました。

はじめに

各地の自治体において「住民との連携」をキーワードに、さまざまな市民参画への試みが行われておりますが、その手法の多くは、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べるのは関係者や専門家などの特定の市民であることがほとんどではないでしょうか。

この為、さまざまな問題意識をもちながらも、普段住民票の交付行政との接点が少なく、実際には各々地域行政への取り組みに積極的に参画するまでには至らない多くの市民にとって、行政に参画する可能性は限られているのが現状です。このような皆さんを「受け手」のままにせず、もっと多くの市民の豊かな知恵と経験を引き出し行政に反映させることは、幅広く多様な市民に対応した行政サービスの提供を可能とし、それを市民が実感し参画意欲をさらに高めていく上で、重要なことと考えております。

今回初めての国立市で企画となる「くにたち市民討議会」は、そんな市民の社会参画を目指す新たな試みです。

この事業は、無作為に選出し選ばれた市民により、地域や社会の問題について討議をし、得られた合意を行政・地域に提言していくものです。地域の課題などに対して「普通」の市民が抱く意識を広くくみとり、さらに地域社会への参画へと導く機会として、この市民討議会を多様な市民参画方法の一つとして、提案、実施していきたいと考えております。

今後も「市民討議会」を継続して開催し、行政や他団体との協働も視野に入れながら、よりこのまちに適した市民参画・地域課題の解決ツールとして発展させていきたいと考えております。ぜひとも皆様には、今後ともご理解を賜り、共にこの「」を新しい社会のしくみとして確立できるよう、よろしくお願い申し上げます。

社団法人 立川青年会議所
国立委員会 委員長
迎 浩一郎

市民討議会とは

地方分権の進む昨今、国や地方自治体でつくられる計画や条例などにおいて、市民の意見を取り入れる機会が増えてきました。

しかしその手法は、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べているのは関係者や専門家などの特定の市民であるのが実状です。

個人の行政参画意識の高いドイツには「プランクスツェレ (Planungszelle)」と呼ばれる市民参画のシステムがあり、利害が複雑に絡む地域問題の解決などに大きな効果をもたらしています。解決しなければならない問題などを様々な視点から複数のテーマに分け、無作為に選ばれた市民や地域の住民がテーマごとに専門家などの意見を聞いた上で討議を行い、結論を導き、メディアなどを通じて発表していくものです。

市民討議会は、この「プランクスツェレ」を日本版にアレンジし、社会に定着させるための試みです。地域や社会が抱える問題を市民や地域住民が共有して考えるきっかけとなり、地域社会の再生の足がかりになるものと私たちは確信しております。

社団法人立川青年会議所では、より多く、幅広く市民のみなさんのご意見を伺う市民参画の方法として、「wellvoice くにたち市民討議会」を開催し、社会に定着させていきたいと考えております。

市民討議会の特徴

(1) 参加者の無作為抽出

市民の中から無作為に抽出された一定数（未成年者を除く）に開催の案内状をお送りし、参加者を募ります。

(2) 参加者への有償性

多くの市民参加型事業とは異なり、討議会への参加者には日当・食事が支給されます。これはドイツのプランクスツェレと同様、金銭を支給することにより参加者に「責任ある仕事」として

取り組んでもらう点に重きをおいています。

(3) 専門家による情報提供

討議の開始に先立ち、テーマに関する専門的知見をもった関係者を招き、参加者への情報提供を行います。情報の操作性をさげ、異なった意見を聞けるよう複数からの意見を伺います。

(4) 討議・発表・投票

情報提供後、おおむね5人を1グループとした討議を行います。立川青年会議所では案内を受けた方の誰でも参加がしやすく、かつ市民討議会のしくみを知ってもらうために、75～90分の討議を1コマとし、午前・午後各1コマ、1日間の開催としています（プランクスツェレの場合は90分の討議を1コマとして1日4コマ、4日間にわたり行い、提言にまとめています）。

討議後にグループ単位による意見を発表した後、参加者全員による意見への投票を行います。賛同できる意見であれば他グループへの投票もできます。

(5) 市民報告書の発表

討議・投票の結果をもとに意見の集約を行い、市民・行政機関・マスコミなどを通して提出公表を行います。

開催までの経緯

2005年

(1) 東京青年会議所における開催

2005年7月に、社団法人東京青年会議所千代田区委員会の主催により、国内初の「市民討議会」が開催されました。「市民で形づくる行政－社会的支援すべき市民活動の課税問題」をテーマに2日間にわたり討議を行いました。

2006年

(1) 3青年会議所合同事業の開催

4月に、財団法人日本青年館ホールにて、社団法人東京青年会議所、社団法人町田青年会議所との3青年会議所共催による合同事業「市民の声かたちになる、新しい社会のしくみ」を開催しました。市民の社会参画の必要性、過去における参画の方法論についての『模擬討論会』を行い、市民の社会参画の必要性と市民討議会という手法の有効性を説くとともに、3青年会議所理事長によるパネルディスカッションを実施し、今後の市民討議会の開催、地域への浸透を目指した共同宣言を採択しました。

これを受け、立川青年会議所では実施に向けた本格的検討に着手しました。

(2) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

2006年度ゆめかなえる委員会（矢澤貴光委員長）担当のもと、8月5日に立川市女性総合センターアイムにて多摩多摩地域では初の試みとなる「wellvoice たちかわ市民討議会」を開催しました。市内地番からの500世帯抽出・ポスティングによる参加者募集を行い、当日12名の参加により「市議会と市民の関わり」をテーマとする討議を行いました。

情報提供者として三葛敦志氏（国分寺市議会議員）、伊藤伸氏（構想日本 政策スタッフ）を招き、市議の立場からみた議会の姿や各国の地方議

会のしくみや報酬などについて説明をいただきました。また、立川市より企画政策課、議会事務局も傍聴に訪れました。

参加者の皆さんは初対面にもかかわらず、開始直後から積極的な意見を交わし、発表・投票を経て、「議会に関する情報をもっと積極的に公開べき」「議員・議会と市民の接点を増やす」などの意見傾向が得られました。

討議・運営の結果は『wellvoice たちかわ市民討議会 実施報告書』として立川市議会議員および議会事務局、立川市役所担当各課、マスコミ等に配布し提言を行いました。

2007年

上記の結果を受け、立川青年会議所では市民の社会参画を促す手法のひとつとして、事業運営全般を2007年度担当委員会（きづく・たちかわ委員会）に引き継ぎ、市民討議会を開催し、制度の認知と充実を図りました。

(1) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

2月4日に立川市女性総合センターアイム5階第1・第2和室にて「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」をテーマに開催し、市内1200世帯の無作為抽出・ポスティングを行い10名が参加しました。討議・運営の結果は報告書にまとめ、4月に行政・市議会・参加者・マスコミ等に配付し提言を行いました。

また5月27日にも「地域コミュニティの活性化」を題材にアイムにて開催し、1500世帯のポスティングに対し10名が参加しました。当日は大学教授・立川市担当者・実際にコミュニティ活動に携わる市民の方に情報提供を頂き、コミュニティが抱える課題、活性化に向けた方策等についての意見を述べ合いました。

(2) wellvoice むらやま市民討議会の開催

9月22日に武蔵村山市役所4階会議室にて、

4月に行われた市議会議員選挙が無投票に終わったことを受け、2006年に立川市で開催したテーマである「市議会と市民の関わり」を題材に開催しました。市内1500世帯の無作為抽出・ポストイティングに対して9名より参加の回答があり、当日は8名が参加しました。

運営の結果

開催前の準備

■広報

事業PRとして、A4両面刷のチラシを制作しました。



案内チラシ

(1) チラシの配布

チラシは会場となるポスティングをした案内状へ同封した他、今回の会場であるくにたち南市民プラザへの配置を行いました。

(2) ホームページ

立川青年会議所では昨年よりホームページ (<http://www.tachikawajc.or.jp/>) に市民討議会に関するコーナーを開設しており、過去の開催報告とあわせ、今回の事業に関する内容を掲載しました。

■無作為抽出による参加者募集

(1) 住民基本台帳からの抽出

2005・2006年度に東京青年会議所千代田区委員会で開催された「市民討議会」や、昨年三鷹市において行政が中心となり開催された「みたかまちづくりディスカッション」では、無作為抽出の手段として住民基本台帳が利用されました。

立川での開催においても一昨年より、企画の段階にて抽出における台帳の利用を検討し、行政にも問い合わせを続けていますが、昨今の個人情報保護に関する諸問題から住民基本台帳の閲覧に対する制限が強化される中、行政との打ち合わせでも「『市民討議会』に対する認知度が低い現段階においては、台帳利用に対して市民の理解を得るのは難しい」との見解もあり、利用は難しいのが現状です。

(2) 地番からの世帯単位による抽出

上記を受け、これまで同様市内の各町丁から無作為に地番を選び、当該世帯に直接案内状をポスティングする方法を採用しました。この方法は厳密には完全な無作為抽出とはいえませんが、号数の指定にもランダムで数字をあてるなど、極力恣意性を排除するよう心がけました。

また、今回国立市で初の開催にあたり、実験として市内500地番を抽出した上で、住宅地図を参照しながら各地点近隣の5世帯を割り当てることで計1500世帯に投函することとしました(500×5=2500)。5世帯の選定は基準となる地番から順番に5世帯(n号、n+1号、…)を選ぶことを原則としました。

今回本方式を試行する理由としては

- ①ポスティングには当青年会議所の国立市外在住のメンバーも行うため、国立市内に対する地理勘の乏しさを補い、かつ開催までの限られた時間における作業の迅速化という現実的な選択
- ②近所で話題に取り上げられることで連れだつての参加の可能性があるか、地域差が認められるか

が挙げられます。

- 抽出対象 武蔵村山市内全域
- 募集対象 市内在住の18歳以上の男女
- 抽出数 2,500世帯
- 対象者の抽出
 - 母集団 市内の全世帯
 - 地点数 500
 - 抽出法 層別二段無作為抽出
(層別→地点抽出→対象世帯抽出)
 - 層別 市内の町丁を単位として
 - 層化 27地区
 - 地点数配分
各地区内の世帯数に応じて
発生確率を比例配分
 - 対象者抽出
各地番にランダムで号数の末尾
1桁を選定(例:9の場合は9号、
19号、29号…のいずれか)

表1 市内各町の抽出ならびに出席回答数

町名	世帯数 ^{*1}	抽出数	返信数
東1丁目	1,368	101	19
東2丁目	1,475	109	16
東3丁目	1,445	107	13
東4丁目	1,382	102	9
中1丁目	1,870	139	9
中2丁目	1,222	91	8
中3丁目	971	72	8
西1丁目	1,677	124	14
西2丁目	2,327	172	16
西3丁目	595	45	11
富士見台1丁目	2,518	187	15
富士見台2丁目	1,891	140	8
富士見台3丁目	1,761	130	10
富士見台4丁目	2,117	156	9
北1丁目	1,018	76	9
北2丁目	1,110	83	3
北3丁目	1,852	138	9
谷保	4,636	342	25
青柳	775	58	8
青柳1丁目	745	56	6
青柳3丁目	234	18	3
石田	87	8	2
泉1丁目	68	6	3
泉2丁目	514	5	3
泉3丁目	225	18	7
泉4丁目	71	6	2
矢川3丁目	133	11	6
計	34,087	2,500	251

*1 2008年1月1日現在(国立市サイトより)

(3) ポスティング

ポスティングには以下の資料を同封しました。

- ・当日案内チラシ
- ・テーマ説明
- ・補足資料「ご案内を読んだ後に」
- ・過去の新聞記事抜粋
- ・返信用ハガキ(料金受取人払)

ポスティング作業は国立委員会の他、武蔵村山委員会メンバーの協力を仰ぎ、10月1～10日にかけて実施しました。事前に住宅地図を用いて確認の上投函を行いましたが、当該世帯が転居、もしくは空家や空地となっていた場合は、そのまま持ち帰りました。

市内 2500 世帯へのポスティングを行った結果、合計で計 17 名より出席、12 名より傍聴の回答がありました。

表 2 参加者一覧

男性 (80)	中
男性 (61)	中
男性 (70)	西
男性 (72)	西
男性 (61)	西
男性 (73)	西
男性 (76)	西
男性 (77)	東
女性 (37)	東
女性 (49)	東
男性 (59)	東
女性 (75)	東
男性 (73)	富士見台
女性 (65)	富士見台
男性 (68)	富士見台
男性 (70)	矢川
男性 (73)	谷保

開催当日

2008 年 10 月 26 日（日曜日）、くにたち南市民プラザ会議室にて、「くにたちのまつり・まちを活性化させるイベントづくり」をテーマに、複数の情報提供を得た上で討議を行いました。

■会場

今回は洋室（テーブル・椅子形式）で設営しました。



討議会場

■討議の傍聴

今回はこれまでのような傍聴室は設けず、見学者は直接室内端の傍聴席より見学を行いました。

■運営人数

当日の運営は統括責任者以下、司会進行 1 名、参加者受付 2 名、傍聴者受付 2 名、カメラ操作 2 名の計 7 名にて実施しました。

■討議のグループ分け

今回は討議の単位として、4 名×3 グループと 5 名 1 グループの計 4 グループにランダムに分けました。グループ分けについては午前の DISCUSSION 1 では受付先着順に A・B・C・D グループの順に分け、討議を行いました。

午後の DISCUSSION 2 では討議開始前に、くじ引きを行い、A・B・C・D グループの 4 グループを決定しました。

■タイムスケジュール

午前・午後とも討議 60 分（用紙への書き込み作業も含む）、発表 10 分以内× 4 グループ、投票 15 分にて行いました。開始時に討議の進め方、発表・投票の流れに関する説明の時間を設け、スムーズな進行ができるよう配慮しました。

【下図参照】

■情報提供・専門家への質疑

今回の情報提供は午前・午後ともに討議の前にそれぞれ行いました。本間康彦氏（市民まつり実行委員）、久保田誠二氏（国立市役所産業振興課課長）、横田貴大氏（一橋大学生・一橋祭実行

委員長）が情報提供を行いました。

情報提供終了後、若干の質疑時間を設定しました。質疑の内容については、説明の中での不明瞭な部分に関する質問のみにとどめました。

なお討議開始後も情報提供者は引き続き会場にとどまり傍聴するとともに、必要に応じ参加者からの個別質問に対する補足等を行いました。

計 画	実 施
9:00 受付開始	受付開始
開会式 挨拶・ご説明	開会式 挨拶・ご説明
討議① 国立のまつり、イベントの現状について	討議① 国立のまつり、イベントの現状について
10:00 情報提供 本間氏、久保田氏、横田氏	情報提供 本間氏、久保田氏、横田氏
討議開始	討議開始
11:00	
グループごとの意見発表	グループごとの意見発表
投票	投票・昼食・休憩
12:00 昼食・休憩	
13:00 討議② まちを活性化させるイベントづくり	討議② まちを活性化させるイベントづくり
情報提供 本間氏、久保田氏	情報提供 本間氏、久保田氏、横田氏
討議開始	討議開始
14:00	
グループごとの意見発表	グループごとの意見発表
投票	投票
まとめ アンケート記入	まとめ アンケート記入
15:00	
総評・謝辞	総評・謝辞
閉会	閉会



情報提供者による説明



討議のようす

■事前の自己紹介

グループに分かれた後は初対面の緊張をほぐすため、最初に自己紹介を行いました。住居の場所や参加した動機などを全員が話しました。名札の着用と互いに「～さん」付けて呼び合うとの事前ルールを確認して討議に入りました。

■討議形態

討議の間、グループごとのファシリテータはとくにおかず、室内の運営スタッフが情報提供者への取り次ぎ、その他討議運営上の補足等の対応を行いました。

討議ではグループごとに大判の付箋紙を用いて、意見を出し合い、意見を最大3つに集約しました。また「残したい意見」（付帯意見）として用紙下部に記入欄を設け、より多彩な意見を表明できるようにしました。

■討議結果の発表

各グループにて、討議で表出された意見をあらかじめ準備したA0判の模造紙にサインペンで書き、室内中央に設置したホワイトボードに掲示の上、グループ単位で意見発表を行いました。発表は1グループ5～10分で、各グループから代表者が掲示板前に立ち、行いました。

■投票

各グループの発表後、参加者17名による投票を実施しました。1つの課題（小テーマ）に対してひとりあたり5票をもち、各グループより発表された意見に対する賛成票を投じました。

テーマ討議の実施結果と考察

テーマ設定の背景

今回、市民討議会のテーマとして「お祭り まちを活性化させるイベント」についてとりあげました。

国立市ではどんど焼き、さくらフェスティバル、市民まつり、一橋祭、天下市などさまざまなイベントが行われています。

これらのイベントについて知っている人は多いでしょうがイベントの運営がどのように行われ、どうすれば参画できるかはあまり知られていません。特定の人のみが運営に関わる形ではその人の負担も重いものとなると同時にイベントの内容が硬直化することも考えられます。今後、イベントの運営を特定の人に委ねず、多くの市民、特に若者が参加できるようなものとし、イベントを通して個人個人がまちの活性化に携われる社会をいかに作り出すかを論点とし今回のテーマの設定をいたしました。

このようにテーマを設定し討議会の当日は、

第1部において「くにたちのまつり、イベントの現状について」を議論することで参加者に現状の把握を行っていただきました。その上で第2部にて「まちを活性化させるイベントづくり ～未来のくにたちのイベント像～」をテーマとして市民にとって魅力のあるイベントやこれからのイベントのあり方などを議論していただくことで今回の討議の場がまちの活性化に個人がどうかかわっていきけるのかを考えるきっかけになるものと考えております。

情報提供者・資料提供について

情報提供者として、本間康彦氏（市民まつり実行委員）、久保田誠二氏（国立市役所産業振興課課長）、横田貴大氏（一橋大学・平成20年一橋祭実行委員長）の3氏をお迎えしました。

本間氏からは現在の国立市のイベントの運営に携わる立場からの情報を、久保田氏からはイベントを後援する行政の職に従事する立場からの情報を、横田氏からは若者のイベント運営に携わる立場からの情報の提供がそれぞれありました。

得られた意見の傾向について

午前・午後にわたる討議の結果を踏まえ、次ページ以降に、両課題における参加者の意見傾向をまとめました。投票は無作為抽出から参加者17名が各々5票を投じ、各課題とも投票総数は85票となります。

DISCUSSION 1 くにたちのまつり、イベントの現状について	
意見（現在のくにたちのまつり、イベントに対して思うこと）	得票数
多くの市民が参加しやすい雰囲気がほしい。（学校単位、地域単位で募る）	17票
市民祭パレードによさこい、阿波踊りなど市民から募って参加型のものにしたい	17票
祭の対象を①市民の祭、②国立以外の人に来る祭、もう少し明確にする必要が	15票
小さなイベントが多すぎる→会場が分散している→これがかえって参加しづらくしている。	13票
文化、体育各グループが合同して行うイベントを広げる	8票
大学通りのイルミネーションを評価する	6票
イベント運営に高齢化への準備が必要では	5票
見学、買い易いように商品ごとにくくってほしい。歩道を一方通行にしてほしい。	2票
大きなイベントを一つにし、後は現在のような小さなものとしては	1票
以前兼松講堂修復のためのコンサートが良かった。市民祭にこうした文化イベントも加えられないか。	1票

DISCUSSION 1

くにたちのまつり、イベントの現状について

くにたちのまつりの現状の把握をまずは行います。皆さんの知っているくにたちのイベント、まつりを列挙してください。専門家からの情報提供も踏まえ現在のイベント、まつりに対して思うことをグループの皆さんで自由に話し合い、意見をまとめてください。

【結果】

「多くの市民が参加しやすい雰囲気がほしい」（17票）「市民まつりのパレードに阿波踊りなど新たな企画を」（17票）と現状のイベントにもう少し参加しやすい雰囲気を求めていることがわかりました。「小さいイベントが多い」（13票）が票を集めたことから現在のイベントのあり方について満足していない現状が見られました。

その反面、大学通りのイルミネーションについては評価する票も見られ、このイベントについては、市民にとって魅力のあるものとなり、定着していると考えられます。また「イベント、まつりにも高齢者対策が必要では」（5票）という意見もあり、現状では高齢者が参加しにくいイベント

もあることが明確となりました。こちらについては対策の検討が急務ではないかと考えられます。

DISCUSSION 2 まちを活性化させるイベントづくり ～未来のくにたちのイベント像～

意見（市民にとって魅力のあるまつり、新たなまつり、イベントのあり方）	得票数
見る（イベント）、作る（子どもさん中心）、聞く（音楽会）要素をとりいれた行事の実施	17票
子どもさんが参加できるイベントを積極的に実施	17票
国立市歌と国立音頭を普及させてイベントとしてPRしたい	12票
街頭芸人を誘致する	11票
自転車で廻れる様な町なのだから、そろそろ適正規模に改める	10票
趣味等を発表する参加型の場の提供	7票
参加する楽しみを深くする	7票
クリスマス時のイルミネーションについて、冬の静かなイベントとして欲しい	3票
阿波おどり、ねぶた祭のようなイベントが欲しい	1票
甲州街道でミコシをかつぐ	0票
盆踊りの盛大化	0票

DISCUSSION 2

まちを活性化させるイベントづくり

～未来のくにたちのイベント像～

第1部の討議を通じてくにたちのイベント、まつりの現状の把握ができたと考えられます。第2部では未来のくにたちのイベント像について考えていきます。専門家からの情報提供を踏まえ、市民が参加し、まちの活性化につながるイベントの開催はどのようにすればいいのか。既成概念のとりわれず意見交換をお願いします。最後にグループの意見を集約し「市民にとって魅力のあるまつり、イベントとは」、「まちの活性化に向けた新たなまつり、イベントのあり方」について発表してください。

【結果】

これまでの受け身のイベントではなく、「見る、作る、聞く、という要素を取り入れた行事の実施」（17票）が最多の得票でした。市民ひとりひとりが参加するだけでなく、作る（＝運営する）という要素がある意見にこれだけの票が集まったところに市民の参加意欲の高さが表れています。

また「国立市歌や国立音頭の普及」（12票）についてはこれらの歌や音頭の存在を知らなかった

という意見がありましたが、普及されることでまちのシンボルを作れ連帯感が保たれることへの期待を込めての投票であったものと考えられます。さらに「趣味等を発表する場の提供」（7票）については現在の市民まつりがパレードという形でしか市民が参加できないため、新たに趣味等を発表できるような場への発展が望まれていることが読み取れました。

実施後の評価と今後の課題

参加者のアンケートから

市民討議会終了後、参加者7名を対象にアンケート調査を実施しました。25項目について質問を行い、以下にその集計結果を示しました。

(1) wellvoice くにたち市民討議会について

質問1「wellvoice くにたち市民討議会をご存知でしたか？」に対しては、17名中16名から「知っていた」と回答がありました。他地域での市民討議会の開催などによって、少しずつですが認知がされてきているようです。

(2) 市民討議会の印象

質問2「市民討議会の案内が届いたとき、どのように感じましたか？」に対しては10名が「まじめな案内」と回答し、参加者からは一定の理解をもって迎えられたようです。一方では「イメージとは少し違った」との回答も寄せられました。

質問5「参加されていかがでしたか？」については、「勉強になった」(10名)「楽しかった」(8名)「想像と違い楽しかった」(5名)と、おおむね好感触をいただくことができました。

質問7「テーマ設定について」では、12名が「適切」と答えました。一方でもう少し身近で切実なテーマがよいという意見も4名ありました。

その他、「次回も参加できるような設えを」というご意見もありました。社会参画を促進するという点からは、無作為抽出による参加者とは別に、前回までの討議会参加者にも案内を送り、希望者にオープンとして参加してもらうなど、運営面の工夫でさらに積極的に地域の問題等に関わる機会を提供することなども可能性として考えられました。

質問8「次回案内が届いた場合は？」の問いには「日程があれば」(10名)「テーマによって」

(4名)と、これまでと同様、取り上げるテ

マの関心度が参加数を左右する可能性が示唆されました。

(3) 討議の進め方・設営面

質問9「情報提供者については？」では「わかりやすい」(8名)の一方で、「時間が短い」(1名)、レジメの配布が必要、との声も複数頂いています。

質問11「グループのメンバー数や雰囲気はいかがでしたか？」では、大半の方より「和やかで話しやすい」「ちょうどよい」との意見をいただきました。

質問12「討議時間」(今回60分)については、8名が「適切」と回答しました。

(4) 報酬

質問13「報酬」に対する質問では8名が「支払うべき」、6名は「不要」と回答しました。その他の回答は「どちらでもかまわない」との趣旨でした。質問14の金額については3名が「適切」1名が「多い」と回答しました(7名無回答)。

(5) 案内状の送付について

無作為抽出に対して住民基本台帳を閲覧することについては、9名が「妥当」と答えました。一方で「心配なのでこのままでよい」(7名)という意見もあり、住民基本台帳の使用については今後も検討を重ねなければならない点であることが明確になりました。

(6) 参加動機について

質問17「普段は発言していないが、抽選で公平に選ばれたので出席した」、「好奇心」、「何なのか知りたかった」、「提案したい事があったので」、「市民として接点を持つ為」、「面白そうだったから」など様々な動機の回答がありました。社会参画を推進するという上でのきっかけづくりとして、本企画が微力ながら役に立つことができたよ

うです。

(7) 今後のテーマについて

質問 19「今後取り上げてほしいテーマ」には、「教育」(9票)、「環境」「保険／福祉」(各6票)などに集まりました。

(8) その他意見・要望、参加の感想

複数の参加者より、案内の送付が開催直前となったことに対するご意見をいただきました。

実施後の評価と課題

(1) 無作為抽出・参加者について

今回は市内全域から 500 地番 2,500 世帯を抽出し、参加目標数を 25 名に設定し募集を行いました。

抽出にあたっては最新版の住宅地図を参考にしましたが、担当者がポストイングに向かったところ、転居や建物の取り壊し等により該当する世帯が存在しないケースがありました。

昨年より投函物に対する信用性を高めた目的で、封筒に宛名ラベルを添付する手法をとっています。ポストイング作業にあたるメンバーからも「封筒に宛名があることで現地の表札と照合しやすく作業が早い」との意見がある反面、転居・建て替えなどで宛先が存在しない場合は、代替地番への投函ができず、そのまま回収せざるを得ません。今回も最終的に全体の 1 割弱(150～200 通)が不達となりました。

また、世帯単位に配布する現行のシステムは、世帯主の開封後に家族の間でどの程度情報が伝わるか、諸条件にもよりますが、家族の中の若年層までに届きにくいという問題も推察されます。

このほか、今回の討議会への返信数・参加数を細かく見てみると、投函世帯数に対する返信比率は JR 南武線をはさんだ南側(谷保・青柳・石田・矢川・泉)が高いものの、参加率は逆に北側(北・中・西・東・富士見台)が高いという結果が得られました。

表 3 返信率・参加率の比較

	投函数 (世帯)	返信数 (世帯)	返信率 (%)	参加数 (名)	参加率 (%)
以北	1972	186	9.4	15	0.76
以南	528	65	12.3	2	0.37
計	2500	251	10.0	17	0.68

今回の討議会場は市南側に設定したことから、会場までの距離が参加率に与えた影響は小さかったのではないかと考えられます。

他の理由としては、討議テーマの「まつり・イベント」への関心が参加率に及ぼした可能性としては考えられます。北側地域からの参加者が多いこと、また DISCUSSION2 の結果から、みこしや踊りといった伝統的な「まつり」よりもイベント的要素への志向が強いことが読み取れます。

今回得られた情報だけではあくまでも推測の域を出ませんが、南側地域においては国立駅周辺におけるイベントへの関心は必ずしも高くない可能性、理由として①国立駅までの距離的な問題②古くから谷保天満宮と甲州街道を中心に発展した南側では、より伝統的なまつりへの関心が強いのではないかと考えられました。

いずれにせよ今回の結果のみでは情報が少なく判断できませんが、興味深い結果となりました。

(2) 事前の PR について

今回は国立市の初めての試みであり、PR に注力する必要がありました。案内状の発送が直前となってしまったことなどがあり、立川青年会議所のホームページ上での事業案内、情報提供にとどまりました。今後、PR 方法についてはプレスリリース等の積極活用などを検討する必要があります。

(3) 実施テーマ数・日程について

今回は午前・午後各 1 つずつの小テーマとしました。過去の他地区での開催でテーマ数と質問次第では最初の 2 テーマ程度で議論が出尽くしてしまうケースもあったため、今回は「まつり、イベントの現状把握」「未来のイベント像」と 2 つに絞りました。当日の展開や結果から、参加された方も大きく迷うことはなく討議から意見を導いてもらえたと考えます。

アンケート結果からも「60 分」という今回の時間設定について大半の方から妥当という回答をもらいました。

ただ時間の制約から実施できるコマ数は 1 日あたり 2～3 が限度であり、現状の 1 日開催の場合はどうしても各論までは至らず、一般論的な

意見にまとまってしまふところはあるようです。

(4) 運営費用について

前回同様、募集・参加の返信における通信費を軽減するため、参加申し込みの返信用には受取人払郵便（1 通 70 円）を利用し、返信にかかる経費の節減を図りました。今回不参加者を対象とした任意の回答を求めたことで、返信数が増え、参加・不参加あわせ 251 通の回答がありました。

(5) 会場について

今回は 25 名の参加に対応できる場所を用意しましたが 17 名の参加でも狭さを感じる状態であり、今後は広めの会場を用意する必要が明確になりました。また他のグループの声で、自分のグループの議論の声が聞きづらい状況も一部に見られ、パーティションを準備するなど討議に集中できる会場作りも検討せねばなりません。

傍聴者への対応ですが今回は別室・モニタは使用せず、討議室内に傍聴者を入れました。最大で 7～8 名が傍聴しましたが、討議進行上大きな支障はありませんでした。少しでも多くの人に討議のプロセスを見聞きしてもらい、関心を高めるといふ点においては、引き続き可能な範囲で傍聴者を会場に入れられる設営を今後も検討したいと思います。

(6) 情報提供について

くにたちのまつりイベントに関わりの深い 3 名に登場いただきました。アンケートの結果から参加者からは今回の情報提供についておおむね評価をいただくことができました。アンケートの意見欄で情報提供者の話の基礎資料を配布してほしいという意見もあったことから今後の開催では簡単なレジメの配布なども検討すべきであるとわかりました。

無作為抽出と並び、「偏りのない情報の提供」が提言に対する客観性、信頼性を担保する上での前提となります。今後の開催においてはテーマ選定も含め行政・地域・他団体への紹介、協働をよ

り進めていくことが必要と感じました。

(7) グループ討議の形態について

ドイツのプラーヌクスツェレにならい、今回も討議を通したファシリテータはおかず、司会が全体のタイムキーパーを兼ね、その他室内の運営スタッフが事務的な取り次ぎや補足のみを行うスタイルをとりました。スタッフをグループ討議の時間中配置する必要もなく、積極的に討議いただくことができました。

今後の展開

公募による参加との併用

「無作為抽出者による討議」の原則に照らし合わせ、案内が届いた方のみ参加への資格が与えられるというしくみのため、本事業は事前のPRがしにくいという問題があります。

知名度が少ない現在、まずは市民討議会という「名称」や「しくみ」の認知度アップに重点をおくのであれば、今後は、傍聴者をオープンで参加できるように仕組みを作ったりして(A)無作為抽出による参加に加え(B)参加希望者の公募という

2本立てで2～3ヶ月前から告知を行い、周知を図ることも広報の面で効果的ではないかと考えました。

あくまでも上記の市民討議会の基本を担保するため、当日の討議では

①(A)と(B)のメンバーは別室(別テーブル)にて討議を行う。グループメンバー間のシャッフルもそれぞれ別個に行う

②投票は別々に行う。または(B)から(A)への投票は認めるがその逆は認めない

③報酬は無作為抽出による参加者のみなどの方策が考えられます。

まとめ

地域にある問題解決のためのツールとして「市民討議会」の確立・定着を目指し、今回初めて国立市内にて開催しました。

今回はできるだけ身近な事柄を中心にテーマを考え、時期的にも国立市で一番盛大なイベントである天下市、一橋祭、市民まつりを控えた時期でもあることから「イベント、まつり」を選定しました。討議ボードには様々な意見が出され市民の皆様が現状のイベント、まつりを今以上により良いものにしたいという共通の意識を持たれていることが確認されました。これまで多くの方がイベント、まつりを通してまちを活性化させるために新たに何かをやろうしてもどうやってその思いを伝えればよいのか模索されていたことも討議を通して明らかになりました。今回の討議の結果を行政、各まつりの実行委員会などの運営機関、その他関係機関に届けることで市民の意見が拾い上げられ、まちの活性化の一助になるものと考えております。これこそが市民討議会の開催意義であると思えます。

また、参加に関する今回の返信から、一定比率の参加可能な層の存在が示唆されました。今後こうした人々の参加の促し声を拾う上でも、日程等諸条件の調整、開催前の事前周知をはじめ、ふだんからの討議のしくみを紹介するなど、市民討議会に対する認知の向上に対する取り組みの必要性があります。

今後、今回の開催の結果を踏まえ運営面を中心として考察を通し、また市民の皆さんからいただいた意見をいかにしてに地域にアピールし反映させていくか、効率的・効果的なツールとしての深化を検討していく必要があります。同時に活動地域が3市にまたがる立川青年会議所のメンバーとして、事業を行っていく上で自分たち自身が改めて地域を知ること、関心を寄せることの必要性を改めて感じました。

立川青年会議所では、2008年には国立以外にも立川市において市民討議会開催を企画、実施し

たしました。無作為抽出・情報提供・有償性の基本をおさえつつ、テーマやその他実施形態においては各行政と協働に向けたアプローチ、地域の特性等を考慮しながら、さまざまな可能性について引き続き検討を行う予定です。

立川青年会議所としても地域に根ざしたツールとして、次年度以降今後さらなる進化をめざし継続的な検討を重ねていきたいと思えます。

謝辞

今回の wellvoice くにたち市民討議会に、ご理解ならびにご参加いただきました市民の皆様、またご多忙の中、情報をご提供いただきました本間康彦様、久保田誠二様、横田貴大様、御多忙の中傍聴にお越し頂いた市議の皆様にはあらためて厚く御礼を申し上げます。

また、準備から多大な協力をいただいたメンバーの皆様へ感謝し重ねまして御礼申し上げます。

参考資料

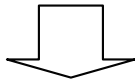
- 別府大学地域社会研究センター「地域社会研究 11号」2005年
- 同「地域社会研究 12号」2006年
- 同「地域社会研究 13号」2006年
- 篠藤明德『まちづくりと新しい市民参加』イマジン出版、2006年
- 社団法人東京青年会議所「市民討議会報告」2005年
- 社団法人立川青年会議所「wellvoice たちかわ市民討議会実施報告書」2006年
- 同「wellvoice たちかわ市民討議会実施報告書」2007年
- 同「wellvoice むらやま市民討議会実施報告書」2007年

資料編

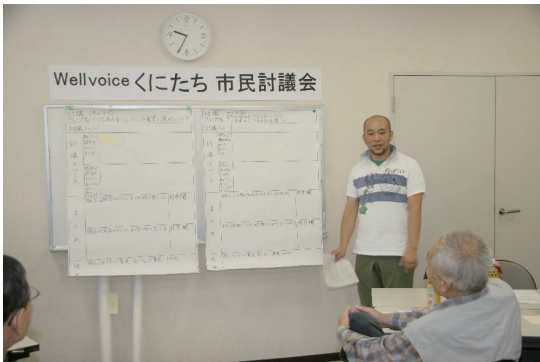
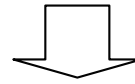
■当日の流れ・会場の様子



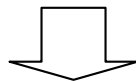
開会・立川青年会議所 国立委員会委員長ご挨拶



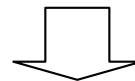
情報提供 久保田 誠二 氏



市民討議会のルールなど説明



情報提供 横田 貴大 氏



情報提供 本間 康彦 氏

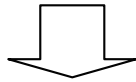


討議の様子

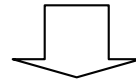




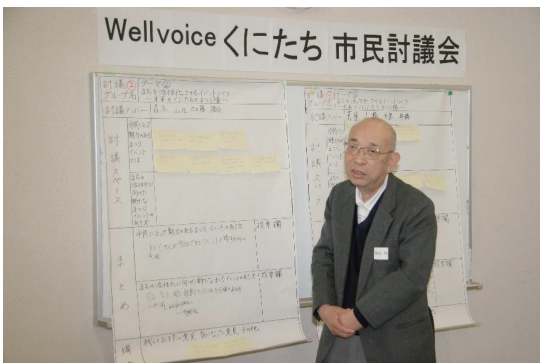
討議の様子



投票の様子



謝辞・立川青年会議所 理事長ご挨拶・閉会



グループ毎の発表



■参加者アンケート結果

※ 回答に関しては一言一句そのまま掲載させて頂いております。

※ 無記名による回答です。(当日参加者17名)

1) a) wellvoice くにたち市民討議会はご存知でしたか？

- ① 知っていた 16票
- ② 知らなかった。 1票
- ③ その他 0票

b) a) で「はい」とお答えに方にお尋ねします。どこでお知りになりましたか？

- ① チラシ ※どこで 0票
- ② ホームページ 0票
- ③ 新聞記事 0票
- ④ 知人から 1票
- ⑤ その他 0票

2) 「市民討議会参加のお誘い」が届いた時にどの様にお感じになりましたか？

- ① 厄介だと思った。 3票
- ② 胡散臭いと思った。 1票
- ③ まじめな案内だと思った。 10票
- ④ その他(何の案内か解らなかった。念のため電話を入れた。/時間的余裕が出来たので参加の気持ちになった。/何だろう?/「へー」という感じ。)

3) あなたは市民会議や座談会などに積

極的に参加しますか？

- ① 積極的に参加する。 6票
- ② 参加しない。 1票
- ③ 状況による。 10票
- ④ その他 0票
(自分の町を知りたいと思ったから。)

4) ご案内が届いたあとに関する質問です。

家族の中からあなたが、市民討議会に参加される事になった理由をお聞かせください。

(宛先が自分だから/特になし/自分の意見を述べたかった/1人暮らしで他には居ない/単身世帯のため/バレタ!/時間的余裕が出来た為/祭りと言え私であると家族に言われました/私宛に届いたから/宛名が私宛だったので/時間があるのが私だけであった。/独身世帯/本人宛に届いたから/回答なし3件)

5) 市民討議会に参加されていかがでしたか？(複数回答可)

- ① 楽しかった。 8票
- ② 勉強になった。 10票
- ③ 新しい発見を見出せた。 6票
- ④ つまらなかった。 0票
- ⑤ 難しくてよく解らなかった。 0票
- ⑥ 想像と違い楽しかった。 5票
- ⑦ 想像と違いつまらなかった。 1票
- ⑧ その他 2票

(偏った。身勝手なことを聞かされて残念/幅広く意見を聞く姿勢は声の大きい人だけの意見に傾きがちな市政とは異なる。市は反省して欲しい。)

6) 市民討議会に参加される前とされた

後では何か変わりましたか？

(自分の勉強になった/元気が出た [老人が元気なので] /色んな考え方がある/国立市とは？/天下市に関する捉え方も千差万別なのだと判りました。

どこに中心を持っていくのかを考えていかねばならないのだと思い到りました。/めったに無い機会に勉強になった/そんな劇的な変化はない/不変/?/特に無し2件/回答なし5件

7) 今回の市民討議会のテーマ設定についてはいかがでしたか？

- ① 適切であったと思う。 12票
- ② 興味が無いのでピンとこない。 0票
- ③ 難しすぎる。 0票
- ④ 市民がやるべきではない。 0票
- ⑤ その他 0票 回答なし 4票
(もう少し最近で切実なテーマが良い)

8) 市民討議会の案内がもう一度届いたらどうしますか？

- ① 日程が合えば是非参加する。 10票
- ② 参加しない。 0票
- ③ テーマによる。 4票
- ④ その他 0票 回答なし 3票

9) 情報提供(者)についてはいかがでしたか？

- ① 説明が解り易く理解できた。 8票
- ② 説明が解りにくく理解できなかった。 2票
- ③ 情報に偏りがあった。
- ④ 説明時間が長い。
- ⑤ 説明時間が短い。 2票

- ⑥ その他 1票 回答なし 4票
(レジメが欲しい/もう少し体系的な説明が必要)

10) 討議の進行はいかがでしたか？

- ① 良かった。 13票
- ② 良くない改善すべき。 0票
- ③ その他 0票 回答なし 4票

11) グループ討議での雰囲気はいかがでしたか？

- ① 良かった。 11票 (内1票は複数回答)
- ② 良くなかった。 0票
- ③ 知識のある人が主張しすぎて議論しづらかった。 0票
- ④ 参考になる意見が多かった。 2票
(内1票は複数回答)
- ⑤ その他 1票 回答なし 4票
(1人少々過激な人がいたが、少しひやひやしたが他の方が穏やかだったので良かった)

12) 討議の時間はいかがでしたか？

- ① 丁度良い。 8票 (内1票は複数回答)
- ② 長くて疲れた。 2票
- ③ 短く意見がまとまらなかった。 2票
(内1票は複数回答)
- ④ その他 1票 回答なし 4票
(課題によって時間は変化するでしょう)

13) 報酬についてご意見をお聞かせください。またその理由は

- ① 支払うべき 8票
・交通費+アルファーと考えたいとおもい

ます。

② いない 6票

・ボランティアで良い

③ その他 2票 回答なし 1票

(昼食代と交通費程度で良い/弁当代のみで可/弁当の支給程度 [②の回答者より])

14) その金額について適切と思われる金額は？

¥1,000- 1票

¥2,000- 1票

¥3,000- 4票

¥5,000- 2票

¥? 1票

回答なし 7票

その他 1票 (実物提供)

15) あなたは何かの団体・組織(仕事以外)に所属されていますか？

① している。 7票

② していない。 9票

③ その他 1票

(一橋大学大学生)

16) 国立市以外の地域では住民台帳を使い案内を出している地域があります。

国立は今後どうあるべきだと思われるですか？

① 心配なので、このままで良い。 7票

② 住民台帳を使うべき。 9票

③ その他 0票 回答なし 1票

17) あなたが参加される事になった理由

(普段は発言しないが、抽選で公平に選ば

れたので出席した/好奇心/何なのか知りたかった/提案したいことがあったので/市民として接点を持つ為/面白そうだったから/私宛に届いた為/色々な意見を聞きたい/地域活動に参加していなかったから/祭りやイベントを通して色々な方々と親交を深める楽しさがあったのでお役に立ちたいと思いました/まじめなのでコンピューター抽出を重んじた/自分の持っている意見を交わしたかったから/意思表示/回答なし3件)

18) 参加されていかがでしたか？

(良好/色々なご意見をお持ちの方に会えてよかった/自分自身にも勉強になったし本気で意見を交える事ができた/楽しかった/おぼろげに感じてはいましたが国立という街の歴史の複雑さをお話として伺えて大変勉強になりました/まあまあのところ/よかった/楽しかった/大変有意義でした/よかった勉強になった/良かった/自由な発言がほしかった/よかった/ここの場所が分からなくて友人に聞いた/種々の意見あり/楽しかった/良かった)

19) 今後とり上げて欲しいテーマはありますか？以下より3つ以内でお答えください。

また、具体的なテーマがありましたらお書きください。

① 教育 9票 (生涯教育/少人数制・学級の推進)

② 市政 5票 (政党・主義主張/国立市の状態を知りたい)

③ 都政 0票

④ 国政 2票 (政治家のモラル)

⑤ 経済 1票

- ⑥ 労働 0票
- ⑦ 環境 6票(家庭で出来るエコ対策/温暖化?による学校の夏のクーラーかの是非など/市町のエコを考える/地球温暖化の防止策)
- ⑧ 交通 2票(歩行者重視への転換)
- ⑨ 防災/治安 3票(立川断層)
- ⑩ 保険/福祉 6票(高齢化が進む為、孤独死を防ぐネットワーク作りなど)
- ⑪ 科学/技術 0票
- ⑫ その他 1票(育児支援について)

- ・女性 3票
(回答なし 4票)
- ② 年齢 ・18~30歳 0票 ・31~50歳 2票
・51~71歳 7票
・72歳以上 7票
(回答なし 1票)

20) 今回は日曜日の開催となりましたが、参加しやすい曜日を教えてください。

- ① 日曜日 10票 (内2票は複数回答)
- ② 土曜日 4票 (内3票は複数回答)
- ③ 平日 4票 (内1票は複数回答)
- ④ 回答なし 2票

21) (社)立川青年会議所という団体をご存知でしたか？

- ① 知っていた。 10票
 - ② 知らなかった。 5票
 - ③ その他 回答なし 2票
- ※ ①の方のみお答えください。どのような活動のイメージですか？

(何処にでもある組織との理解/名前だけ?/地域の人々に貢献する/若大将の会/名前のみ知っていた/健全な有用な団体/立川について具体的には知らない)

22) あなたの性別・年齢を教えてください。

- ① 性別 ・男性 10票

23) 本討議会の手法を使ったら良いと思われる団体などあったら教えてください

- ① ない 7票
- ② ある(差し支えなければ教えてください) 5票

(国立市役所/自由な定義が望ましい/ブレインストーミング/討議スペースの時間とまとめの時間が重複している/わかりません/展開してあるべく姿に向けて)

回答なし 5票

24) 今後立川青年会議所からの事業のご案内を希望されますか？

a) 「wellvoice市民討議会」に関する開催・傍聴のご案内

- ① 希望する 12票
 - ② 希望しない 3票
- 回答なし 2票

b) その他立川青年会議所が主催・共済する案内

- ① 希望する 11票
 - ② 希望しない 1票
- 回答なし 5票

ご意見やご要望がありましたらお聞かせ

ください？

論議するには基礎資料が不足。もう少しないと論議の前提が揃わない。午前と午後のテーマが混ざってしまう。/意見を1本にまとめることは難しい。まとまらない意味は併記しても良いと思う。/年齢層に偏りがあるので色々な年齢の人の意見が聞きたかったです。/ご苦労さまでした。/市民先導型の政治とは言っても難しいように、お祭りやイベントも同じようなのだなと思いました。今日は年配の方々の意見がたくさん伺えて大変参考になりました。/いずれも地域情報導入のため参加するかどうか不明

■開催案内同封資料



ランダムに選ばれたフツーの市民で考える「もっと住みやすいまち」への新しい試み。
ほら、次はあなたの出番ですよ。

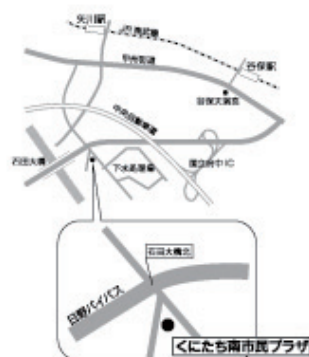
wellvoice

くにたち市民討議会

2008年10月26日(日) 9:30~15:30

くにたち南市民プラザ (国立市泉 2-3-2 都営アパート1号棟1階)

主催・社団法人立川青年会議所 <http://www.tachikawajc.or.jp/wellvoice/> 後援・国立市



今回の討議テーマ

wellvoice
く に ち ち 市 民 討 議 会

く に ち ち の ま つ り

—まちを活性化させるイベントのあり方とは?—



私たち大人は、仕事や生活に追われ忙しい毎日を送り、目まぐるしく変わる様々な情勢の中、自分の関る事以外関心がなく、世の中の大切な事に気付かなくなっていないでしょうか？ 特に地域に目を向けると、傍観者の立場から眺めているだけでないでしょうか？

明るい豊かな活き活きとした社会を実現する為に、若年層をまちづくりに参加する同期づけを図る為には、市民の意見及び考え方など話し合う場が必要ではないでしょうか？

専門家や実際に地域活動に携わる市民の方から情報提供を交え、地域に関心がある人、ない人、そしてほどほどの人、ランダムに集まった「フツーの市民」どうし意見を交えてみませんか？

市民討議会とは？

近年は国や自治体の計画・条例策定に市民の意見を取り入れる機会が増えてきましたが、その多くでは公募型の審議会や委員会などにおいて関係者や専門家などの特定の市民が意見を述べているのが現状です。しかし、会社に勤め、家事をし、子どもを育て、趣味を楽しむ、そんなごく普通の生活をするみなさんの声こそ、本当の市民・社会の声として、もっと行政に届け、活かしていくべきではないでしょうか。ドイツには「プラークンクスツェレ」という市民参画による討議システムがあり、利害が複雑に絡む地域問題の解決などに大きな効果をもたらしています。市民討議会はこの「プラークンクスツェレ」を日本向けにアレンジし、社会に定着させる試みで、地域や社会が抱える問題を住民が共有して考えるきっかけとなり、社会参画意識の向上、地域社会の再生の足がかりになるものと考えています。

より多く、幅広く市民のみなさんのご意見を伺う市民参画の新たなツールとして、立川青年会議所では「wellvoiceく に ち ち 市 民 討 議 会」を地域社会に定着させていきたいと考えております。ぜひ、みなさんの声をおきかせください。

市民討議会の特徴

- 参加者の無作為抽出
市民の中から無作為に抽出された世帯に案内状をお送りし、希望者を募ります。
- 参加者の有償性
無作為抽出により討議会に参加された方には、参加の手当ならびに当日の食事が支給されます。
- 専門家による情報提供
討議の前にそれぞれのテーマについて、行政をはじめ専門家を招き、意見ならびに情報提供を受けます。情報の操作性をさげ、異なった意見を聞けるよう複数からの意見を伺います。
- 討議報告書の公表
討議の結果はそのつど市民に対し行政関連機関・マスコミなどを通して公表します。

これまでの開催実績

立川 JC では市議会と市民の関わり方や地域コミュニティのあり方などをテーマに、立川・武蔵村山両市でこれまでに4回開催し無作為に選ばれた中から集まった参加者によるディスカッションを行いました。都内の4区5市、他県においても青年会議所主催や行政との共催で開催されマスコミにも取り上げられるなど、新しい「しくみ」として各地で広がりを見せています。国立市でも、行政との協働による市民討議会の開催を予定しています(2009年予定)。



市民の皆様へお願い

市内にお住まいの皆様より無作為に2500世帯をお選びし、個別にご案内をお送りいたします。もしご案内が届きましたら、ぜひとも応募いただければ幸いです。

「wellvoiceく に ち ち 市 民 討 議 会」は、市民の知恵や感覚を行政などに反映させる新しい民主主義の形をつくる、はじめの第一歩です。皆様のご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



傍聴・見学もできます

当日のディスカッションの様様を傍聴見学されたい方の受付も行います。詳しくは下記までお問い合わせください。

※傍聴・見学の方は、ディスカッションに直接加わることはできません。あらかじめご了承ください。

主催：社団法人立川青年会議所 後援：国立市

お問い合わせ 社団法人立川青年会議所 事務局 立川市曙町2-38-5 立川ビジネスセンタービル12F
TEL: 042-527-1001 FAX: 042-527-6600 Mail: info@tachikawajc.or.jp URL: www.tachikawajc.or.jp

2008年9月吉日

市内ご在住の皆様へ

社団法人立川青年会議所
理事長 端 晶弘
国立委員会 委員長 迎 浩一朗

wellvoice くにたち市民討議会 参加のご案内

拝啓

仲秋の候、皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。突然のご案内を差し上げることご無礼をお許しください。

社団法人立川青年会議所では、市民と共に地域をはじめとする社会問題の解決に取り組んでいく“市民の社会参画”をテーマに、一昨年、昨年に引き続き「wellvoice くにたち市民討議会」を開催いたします。

この事業は、市内在住者より「無作為に抽出」した皆様から参加者を募り、さまざまな地区・世代・職業の方で地域や社会の問題についてのディスカッションを行い、得られた合意を行政・地域に提言していくものです。従来の市の審議会や公募制の委員会等とは異なり「無作為による抽出」を大きな特徴としております。日常の暮らしの中、地域・行政との接点が少なく、問題意識をもちながらもこれまで地域の取り組みに積極的に参画するまでには…という市民の方は多いと思います。こうした皆様に「受け手」のままにせず、もっと多くの市民の豊かな知恵と経験を引き出し、地域に反映させることは、幅広く多様なニーズに対応した行政サービスの提供を可能とするとともに、地域の皆さんが実感し、参画意欲をさらに高める上で、重要なことと考えております。

市民討議会は都内の青年会議所が中心となって、昨年は千代田・墨田・江東・葛飾・国立・三鷹・多摩・町田・日野の4区5市にて開催されました。また都外でも多くの地域で開催いたしました。

本年はさらに各地域の青年会議所主催・共催等により開催が計画されております。立川青年会議所では、地域の課題などに対して「普通」の市民が抱く意識を広くくみとり、さらに地域社会への参画へと導く機会として、この市民討議会を多様な市民参画方法の一つとして、提案、実施していきたいと考えます。

まだまだ端緒についたばかりの事業であり、ご理解を頂いた上、多くの皆様のご意見を伺っていききたいと考えております。何卒積極的なご参加ご検討のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

- 主 催 社団法人立川青年会議所
- 後 援 国立市
- 日 時 10月26日(日) 9:30~15:30
- 会 場 くにたち南市民プラザ
- 名 称 wellvoice くにたち市民討議会
- テーマ 【お祭り】まちを活性化させるイベントを考えてみませんか？

以上

- 募集人数 25名(5名×5グループ) ※先着登録順

今回のご案内投函の経緯について…

新しい試みである「wellvoice くにたち市民討議会」の参加者抽出方法として、市内住宅地図と乱数を用いた2,500地番の無作為抽出（〇〇町〇丁目〇番〇号まで）を組み合わせ、今回ご案内をお届けいたしました。

突然のお手紙に、ご迷惑等をお掛けすることも多々あるかとは思いますが、何卒ご理解の上、ご家族の中より18歳以上の1名の方に、今回の討議会にご参加頂ければ幸いです。

当日の討議方法について…

今回は先着順に25名の参加者を募集いたします。5名ずつのグループに分かれ、2つの小テーマに分け、各グループにてディスカッションを行います。名前こそ「討議」とありますが、決して堅くならず、アットホームな雰囲気でお話をしていただけるような設営をいたしますので、どうぞお気軽にご参加ください。

「テーマについての知識がいるのでは…?」と思われる方へ

テーマについての事前知識が全くなくても大丈夫です。この「市民討議会」は皆様がそれぞれのテーマについて勉強ができる場でもあります。討議中は専門家が近くにおりますので、わからないこと、ちょっと違った方向へそれたと感じた場合、討議が進まない事等があるときはスタッフがサポートいたします。

傍聴をご希望の方は…

傍聴者は直接討議には加わることはできません。事前に傍聴を希望される方は同封のハガキにご記入の上、ご投函ください。

最後に…明るく楽しいディスカッションを目指しております。この日本でもまったく新しい試みである「市民討議会」を今後、発展させていくためにも、是非とも皆様の御参加をお待ちしております。

社団法人立川青年会議所について

国立・立川・武蔵村山の3市に居住もしくは勤務する20～40歳の100余名のメンバーで構成され、「まちづくり・ひとづくり」をテーマに、国際交流、青少年の育成、環境問題、地域諸団体との交流、行政への政策提言活動等の事業を行っております。

ホームページ <http://www.tachikawajc.or.jp>


料金受取人住所印
立川局承認
2408
差出有効期限
平成29年10月20日
まで(切手不要)

190 8790

東京都立川市曙町 2-38-5
立川ビジネスセンタービル 12 階

社団法人 立川青年会議所
wellvoice たちかわ市民討議会係 行



10月26日(日)
wellvoice くにたち市民討議会に
参加します
傍聴を希望します
不参加
いずれかに○をおつけ下さい

不参加の方、差し支えなければ理由をお書きください

ご氏名 _____

性別 男・女 _____ 年齢 _____ 歳

ご住所 _____

お電話 _____

E-Mail _____

不参加の場合は投函して頂くかFAXでも構いません。
FAX番号 042-527-1001

■当日配付資料

スケジュール

10月26日(日)

時間	内容	備考
9:00	受付開始	
9:30	開会式 挨拶・趣旨説明・進め方の説明など	
9:40	討議① 国立のまつり、イベントの現状について 情報提供 (20分) 本間氏 久保田氏 横田氏	
10:00	討議開始 (約60分)	
11:15	グループごとの意見発表	
11:30	投票	
投票をすませたら昼食		
12:40	討議② まちを活性化させるイベントづくり ～未来のくにたちのイベント像～ 情報提供 (20分) 本間氏 久保田氏	
13:00	討議開始 (約60分)	
14:15	グループごとの意見発表	
14:30	投票	
14:40	まとめ アンケート 事務連絡 閉会式	
15:30	閉会	

市民討議会の成り立ち

市民討議会と名づけられたこの会議は、普段声を上げる機会の少ない市民に参加するきっかけをつくり、世代や職業を越えて集い、まちづくりについて話し合いその声を行政に届け市民が直接参加していく新しい形のしくみです。2005年、2006年に東京JC主催で千代田区にて開催、昨年は立川JCの主催で立川市にて開催、三鷹JCでは三鷹市との共催という初めての形で昨年は多摩JCの協力で多摩市主催で開催されました。

青年会議所=JCとは…

世界的な公益団体で日本全国に4万人の会員がおり、20歳から40歳までの青年が手弁当でまちづくり運動をしています。

社団法人立川青年会議所では、先進諸国の多くで開催されている[無作為抽出による市民の会議]に着目、その有効性を研究・検討してまいりました。

無作為抽出により選出された市民の会議

ドイツ プラームクスツェレ(計画細胞)

イギリス 市民陪臣

アメリカ 討論型世論調査 など

プラームクスツェレはEU9カ国でも開催される予定。

このような会議を参考に市民討議会は生まれました。

市民討議会の特徴

①参加討議者の無作為抽出

いろいろな市民の方に来て頂くため、また、今まで機会がなかった方の意見を伺うためにも無作為という手法を使います。今回は、コンピューターがランダムで選出した2500名の市民の皆様にご案内を差し上げました。結果15名の方が参加を承諾して下さいました。ちなみに無作為選出に関してはコンピューター任せとなっておりますと二度と同一の抽出は行えずデータも残っておりません。個人情報の取り扱いには細心の注意をはらっております。

②参加者の有償性

今回は、市民の皆様の日々の時間を割いて参加して頂くことから機会原価の損失分の補填、という観点で、また、まちづくりに対して仕事として取り組んで頂くために手当てをご用意いたしました。近隣地区にて行われました市民討議会での支給実績を参考に算出し、1日で3000円となっております。

③専門家による情報提供

討議の前にテーマに沿った様々な情報提供を聞いて頂きます。情報は、討議に偏りが生じない様、多角的な意見を聞いて頂く様に配慮されています。市民の皆様にとって馴染みのあるテーマであっても幅広く歴史・制度・法・統計・データなど基本的な情報も含めた情報提供を受けることで具体的にかつ体系的に考えることが出来るようになります。

④参加討議者だけで討議・意見を集約

参加している市民の皆様だけの小グループ(5人程度)で討議をして頂きます。事前の情報提供もありますので心配はいりません。討議が滞った場合にはスタッフが促すこともありますが、討議には参加はいたしません。2回の討議がありますが1テーマ毎にメンバーチェンジ(シャッフル)をします。様々な方々と偏りなく意見交換・討議が出来ます。グループ討議の結果を模造紙(討議ボード)にまとめながら記入して頂き、グループごとに発表します。各グループの発表を聞き、共感できる意見に対しシールによる投票を行います。このようにして意見を抽出し、集約し合意形成をしていきます。

⑤討議結果「報告書」の提出・公表

討議の結果は整理・分析し、市民の皆様へ公表致します。また、報告書がどのように活かされていくか見守っていきます。そして参加された皆様の協働へ次のステップへ繋げていく道筋を考えてまいります。

連絡事項および注意点

参加討議者の皆様にとって討議しやすい環境をつくるため、以下のことにご協力下さいます様、お願い申し上げます。

全体

- 警備・安全保障の点から、指定の場所以外に立ち入らないで下さい。
- 施設内は禁煙です。喫煙は休憩時間中に屋外の指定の場をお願い致します。
- 昼食はご用意致します。
- ごみはお持ち帰り下さい。
- 自己責任となりますので、貴重品の管理には十分ご注意下さい。
- 駐車場はございますが、なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

討議中

- 情報提供や討議中の携帯電話・メールのご利用はご遠慮下さい。
- 討議中のパソコン使用や個人による録音・カメラ・ビデオ等による撮影は、原則としてご遠慮下さい。
- 主催者側が討議風景をカメラ・ビデオ等で撮影する場合があります。
- 討議中は原則として関係者以外の入室を制限します。
(但し、主催者側の判断により入室することがあります)
- 名札は必ずつけて下さい。
- 討議のルールを守り、積極的な討議をお願い致します。
- ご不明な点、困った点等ご遠慮なくスタッフまでお申し付け下さい。

話し合いのルール

1. 「さん」づけで呼びあって！
市民同士お互いを尊重し合ってください。
2. いろんな意見はみんなの財産
他の方の意見は否定しないで下さい。
3. 自由な発想、恥すかしがらずに
むずかしく考えずに気軽に提案して下さい。
4. みんなでわいわい楽しくミーティング
皆さんが参加できる様に気遣いをして下さい。
5. いい意見には素直に賛成
話し合った結果をみなさんでまとめて下さい。
6. ステップ B Y ステップ
前の議論を踏まえて次の議論にのぞんで下さい。

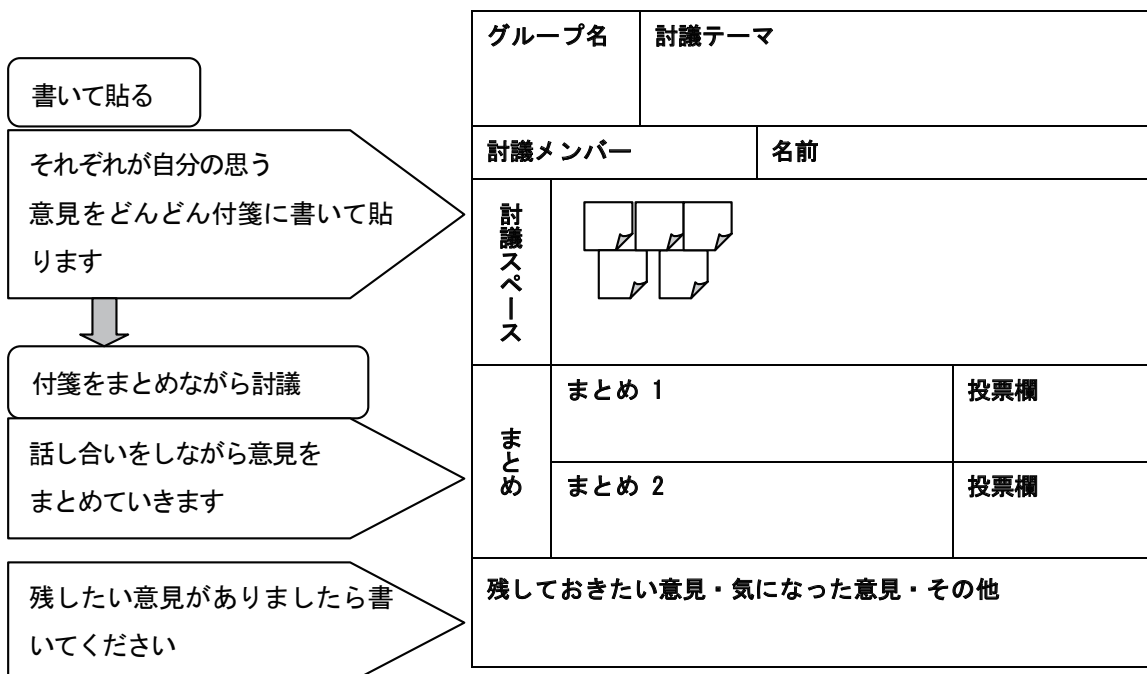
討議の進め方

1. 全員で情報提供を聞きます

- ・ 専門家・実践者からの話
 - ・ 多角的な意見
 - ・ 現状のデータ など
- 討議をスムーズにするための情報を提供します。

2. 小グループで討議します

討議ボード(模造紙)



3. 各グループ発表・投票

- ・ 各グループで順番に発表をします。
- ・ その後、同意する意見に投票をします。その際、ご自分のグループ以外の意見に投票してもかまいません。
- ・ 投票の方法：ひとつの討議に対し、ひとり5ポイントのシールを配ります。(投票欄に貼る)

国立委員会 市民討議会

情報提供者のみなさん

- 本間 康彦 氏（ほんま やすひこ）
本間電工株式会社（国立市中 2-20-7） 代表取締役
立川 J C 2000 年卒業

毎年 4 月に開催される「さくらフェスティバル」及び 11 月に開催される国立市民まつりの実行委員会に長年、幹部として携わっていることからイベント設営に精通している。

これまでの経験から蓄積されたノウハウやイベント設営の現状等を市民討議会参加者に説明いただくことで参加者が今回のテーマである「くにたちのイベント、まつりの現状」と「まちを活性化させるイベントづくり ～未来のくにたちのイベント像～」について意見交換をする一助となる。

- 横田 貴大 氏（よこた たかひろ）
一ツ橋大学 経済学部 3 年 2008 年度 一橋祭実行委員長

毎年 11 月に市民まつり、天下市と同時に開催される一橋大学の学園祭である一橋祭（いっきょうさい）の実行委員長である。

一橋祭実行委員会は開催にむけ 1 年の時間をかけ準備を行っている。若者からみた国立市のイベントとは？、これからさらに若者が率先してイベントに参加するようなモチベーションを高めるにはどのように地域はあるべきなどか、など若者の視点での現状を報告。

若者の代表としての情報提供者である。

- 久保田 誠二 氏（くぼた せいじ）
国立市役所 産業振興課長

国立市役所の産業振興課では商工業の振興を目的として様々な業務を担当している課長である。その業務の一環としてさくらフェスティバルや市民まつりの運営の後援を行っている。今後、イベントの活性化を図るには、地域、行政が一体となったイベントの運営が不可欠であり、イベントをバックアップする立場の方を情報提供者として招くことでより深い議論を交わすこときっかけづくりが可能となる。

行政の立場から国立市のイベントの現状や若者がイベントの運営に参加しやすくするにはどのような運営形態が考えられるのかなどの情報が提供され参加者の意見の参考になる。

2008年12月10日 発行

編集 社団法人立川青年会議所
国立委員会

委員長 迎 浩一朗

副委員長 真見 敬

幹事 廣瀬 正明

委員 岡本 正光

小林 寛

三宮 毅彦

曾我 忠祐

高橋 豊志

速水 浩一

佐藤 進

副理事長 吉田 裕史

発行 社団法人立川青年会議所
東京都立川市曙町 2-38-5
立川ビジネスセンタービル 12階
TEL042-527-1001 FAX042-527-6600
www.tachikawajc.or.jp

©Tachikawa Junior Chamber inc., 2008

禁無断転載